

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20522

研究課題名（和文）少子高齢化時代のスリランカにおける社会福祉 南アジア型福祉モデルの構想に向けて

研究課題名（英文）Aging and social welfare in Sri Lanka

研究代表者

中村 沙絵（Nakamura, Sae）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80751205

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：スリランカでは過去20年強、家族主義を軸に据えた高齢者政策が整備されてきた。他方で国内外出稼ぎの常態化など、社会はますます流動化しており、子から親への扶養やケアは自明なものではなくなっている。本研究では今日的状況におけるスリランカの高齢者福祉の在りようを政策面と民族誌的調査の両面から捉えようと試みた。

研究期間を通じて、1）スリランカにおける社会福祉政策の概況を整理し、2）都市部で慢性疾患を抱える高齢者のケア・ネットワークと社会保障手当の機能、3）農村部に独居する高齢者と人道主義的な贈与、4）高齢者施設における扶養とケアという、異なる領域の養老・介護の実践について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「近代的」制度にもとづく専門的ケアか「伝統的」制度である家族のケアのいずれかを「のぞましい」とする考え方があがるが、スリランカも例にもれない。高齢者のための良質な医療・福祉サービスは高額でアクセスが難しく、世代間関係も流動化している現在、近代的なケアはおろか家族によるケアも当たり前で期待できなくなっている。本研究は、こうした制度にもとづく思考にとらわれずに、いわばスリランカの歴史的・社会的文脈のなかからあらわれる福祉やケアの実践を記述し、日常実践の現場から福祉政策の実態を照射する。こうして、スリランカの高齢者福祉をめぐる議論に参加しつつ、私たちの身近なケアの営みを振り返る契機を見いだす。

研究成果の概要（英文）： In the last two decades, Sri Lanka has developed an ageing policy that largely (though not solely) depends on adult children for the economic support and care for their aged parents. Although majority of the population strive to fulfill their obligation as a child, care from children to parents is no longer self-evident due to economic hardships and higher rate of migration and mobility.

This study attempted to capture the state of welfare of the elderly in Sri Lanka in today's context from both policy and ethnographic research perspectives.

This research project aimed first to understand an overall structure and characteristic of social welfare policy in Sri Lanka, and then to consider, mainly through ethnographic methods, the function of care networks within and outside of nuclear family as well as social security benefits/welfare programs for the elderly people living under different socio-economic conditions; urban, rural and institutions.

研究分野：文化人類学、南アジア地域研究

キーワード：スリランカ 高齢者 ケア 福祉 介護 社会保障

1. 研究開始当初の背景

スリランカやインドでは過去 20 年強のあいだに、家族主義を軸に据えた高齢者政策が策定・整備されてきた。この動きは、養育や養老などケアの営みを私的領域(親子関係)に委ねようとする新自由主義の流れと平行に展開した。内戦を背景とする海外移住に加え、外貨獲得のため海外や都市沿岸部(自由貿易地区)に出稼ぎをする人口も増加の一途をたどり、社会の流動化はますます顕著になっている。このようななか、子から親への扶養やケアとは、期待はされたとしても(各地域や階層、「民族」の慣行にもよるが末子相続への期待は広く共有されている)自明なものではなくなっている。

スリランカでは、おそらく多くのアジア諸国と同じように、家族・親族によるケアに価値がおかれている。しかし家族からの扶養やケアがみこまれない場合には、その隙間をうめるように徐々に広まりつつある民間のケアサービスや政府の金銭援助を模索する。慈善型の施設ははまだ忌避される傾向にあるが、近代的な設備が整った施設(有料ホーム)に入るとは次善の策である、というような言説は、とくに都市部中間層の調査協力者を中心に聞かれるようになった。しかしそれらは費用が高いことに加え、待機者リストもあり、大多数は結局サービスを受容できずにいる。世代間関係の変容・再編が起きている今日、家族によるケアも、近代的な設備でのケアもままならない不安のなかで老後を迎える人は少なくない。

上述のように、今日のスリランカ都市部では、伝統的制度としての家族によるケアか、近代的制度にもとづく専門家によるケアのいずれかを「のぞましいケア」とするような認識があるが、そのいずれにも限界がある。他方、老年を支える関係性や実践の実態に目を向ければ、こうした図式的な理解では想定されていない、多様な関係のあり方が存在している。福祉(あるいはケア)の担い手が出会いがたちづく異種混濁の社会的領域は、これまでの研究では殆ど報告されてこなかった(そこにはスリランカのみならず、私たちが老年を支え、また自ら生き抜くうえで考えるべき事柄やそのヒントが隠されているように思われる)。

2. 研究の目的

以上をふまえ、本研究は、これまでスリランカの老人施設を主な対象地として民族誌的フィールドワークに基づく成果を発表してきた研究代表者が、施設だけでなくその外、都市郊外や農村部で暮らす高齢者たちの生活現場から、老年を支える関係性や実践の束をみることで、少子高齢化や社会の流動化が進展するスリランカの高齢者福祉の実態の一端を民族誌的に明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

文献収集とインタビュー、民族誌的フィールドワークにより研究を実施した。具体的には以下の通り。なお、研究事業開始の翌年に新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で臨地調査が難しくなったこと、また続けてスリランカは深刻な経済危機に陥り、2023 年夏にかけて現地の方々との間で研究活動の継続が困難となったことから、当初の計画を柔軟に縮小・変更して実施した。

1) 文献収集

スリランカにおける社会福祉の全体的なイメージを得るため、スリランカ政府が刊行した資料、ウェブサイト、(主にスリランカ出身の)研究者によって書かれた関連テーマの二次資料から情報を収集・整理した。

2) フィールドワーク

期間や頻度の制限により、主に高齢者のみ世帯(夫婦やきょうだいとの同居、あるいは独居)かつ慢性疾患を抱えている方、介護が必要となっている方に調査への協力をお願いし、日々のケアの営みについてのインタビューや参与観察を行った。とりわけ、様々な地域で注目を集めつつある高齢者向けの社会保障手当や現金給付、日常的な宗教実践に焦点をあて、これがどのようにケア・ネットワークの生成・維持・再編を媒介しているかに着目した。

3) オンライン(サーベイ)調査

コロナ禍で予定していた現地調査は見合わせるようになったが、代わりにスリランカのペラデニア大学の研究者の協力を得て、スリランカにおける世代間関係と高齢者ケアに関するサーベイ調査を実施した。コロナ禍での実施には様々な困難があり、時間をかけて、中部州の都市部と農村部で各 100 世帯ずつ計 200 世帯からデータを収集した。データは調査票

とインタビューの音声データがある。なお本調査は、NIHU 地域研究プロジェクト・南アジア地域研究の研究活動費の補助も受けて実施した。

4) これまで報告者が書いてきた論文やフィールドノートの再読み込み作業
これまで書き溜めてきたフィールドノートのうち、未刊であった箇所については再度読み返し、論文執筆に活用した。

4. 研究成果

まず、スリランカにおける高齢者福祉政策について以下を明らかにした。

同国では、障害者権利保護法の制定に続き、2000年に高齢者権利保護法が制定され、この法律にもとづき、社会サービス省のもとに高齢者全国評議会が、その下に高齢者全国事務局がおかれた。主なサービスは貧窮している高齢者や寡婦への生活保障やメガネ・補聴器の提供、高齢者用施設の修復・増築・開設の部分的資金補助、村単位の老人会設立に向けた資金援助、高齢者 ID の発行などであり、啓発活動として「高齢者」という雑誌を毎年発行したり、各種記念行事を行ったりもしている。

これら「高齢者福祉」政策に先立ち、いくつかの年金制度が存在した（最も古いものが公務員を対象とする年金制度 PSPS と退職金制度 PSPF）が、安定した額の年金を生計受給でき、しかもそれによって生活を成り立たせることができるのは、1割以下の上級公務員に限られる。民間企業の労働者は1958年以降、EPFへの加入が義務付けられ、退職金という形で受給するが、その規模はボーナスか年収程度であり、生活費を賄うことは不可能である。1990年前後には農民、漁民、自営業者のそれぞれを対象とする年金制度（ボランティアな自己拠出的制度）も登場し、農業保険局や社会保障局によって運営管理されているが、財源不足による年金滞納などの混乱も生じている。物価上昇により家計がひっ迫し、薬代もかさみ、出稼ぎの影響で国内家事労働者の賃金相場が引き上げられているなか、何らかの社会保障制度から裨益していたとしても、老後の生活には、家族や親族その他インフォーマルな関係性による扶養が不可欠となっている。

スリランカでは親子間の長期的互酬性という道徳律の強固さが語られることが多いが、冒頭に書いた通り、家族間関係は流動化・複雑化している。先述の高齢者権利保護法は、これまで慣習的に実践されてきた子世代による老親の扶養をはじめて明示化した法律であり、この問題は実質的には「高齢者の扶養に関する審議会」において処理されている。これは子どもから扶養を受けられず自身にも十分な収入がない場合、この審議会に申請書を提出すれば、子どもからの扶養を要求することができるという制度である。審議会の存在が物語るように、家族主義一本では立ち行かなくなるという危機意識は政策決定者の間では共有されている。

現在こうした取り組みを牽引しているのは、主に NGO や社会事業団体、そして地域で暮らす高齢の住民である。例えば、近年少しずつ開設が進んでいる「デイ・センター」は、高齢者が日中集まって過ごす場所である。近隣に住む低中所得者層出身の高齢者が主な利用者であり、彼らはそこで紅茶や昼食をとったり、ボードゲーム、食事や掃除の手伝い、宗教実践、少し収入の足しにもなるような経済活動などに従事する。利用者の食事や飲み物、薬の大部分は、政府からの部分的な支援を受けながらも、孤児院や老人施設、癌病院などにみられるのと同様に、有志の人々によるダーナ（布施）で賄われる。また NGO と高齢者事務局が協働で導入を試みているもの（パイロット事業）に、全国的に組織化された老人会を利用した村人同士のケア・ネットワークの構築がある。日常的なケア労働力が不足するなか、それをサービスとして購入する資金力をもたない多くの人が、ノウハウを学び、地域で高齢者をサポートするということである。ある意味では「親とその子供」という閉じた単位としての家族を超えて広がる関係性を援用した仕組みと言える。

このように、現在のスリランカでは、家族主義を軸としながらも、地域の NGO や社会事業団体、篤志家、老人会などの活動をとりこみながら、福祉サービスを徐々に充実化させようというとりくみが展開している。

次に、高齢者世帯をとりまくケア・ネットワークの構築について、フィールドワークから以下のことが明らかになった。狭義の家族（世帯）の枠組みをこえた／補完する扶養やケアの関係性について考える際、金銭の担う役割に注目することは重要である。高齢者向けの「手当て」、すなわち年金や現金給付、退職金については、先述した通り、それだけでは生活を成り立たせることは多くにとって不可能であるが、見方を変えれば、これらの手当てが、望ましい老後やケアの実現にあたって関係性や行為を媒介する可能性（失敗する可能性）もあるのだ。なお、年金・退職金・社会保障手当への着目と考察においては J. Ferguson の著作 Give a Man a Fish に着想を得た。彼のいう「分配にかかわる労働」(distributive labor) とは、例えば国家などからの再分配機能を通じて得られた資源を、いわば「バラ銭」にわけながら、親族関係、後援者 クライアント関係、だましや詐欺、忠誠や連帯など、さまざまな社会関係の創出や維持をなす活動をさす。大事なものは、分配を正当に要求できるような関

係を形成し維持するためには、意識的かつ持続的な働きかけが必要だ(それは大変な仕事、laborである)という点である。このように、分配にかかわる労働は他者へのノからの依存を肯定的にうけとめ社会観のシフトを説くものだが、この概念を老年扶養やケアの文脈に援用する際には、依存が生存を維持する以上の意味をもつこと(特に、相手との境界が不明瞭になるほど互いの生に食い込み合うという意味での「依存」は、生の充実をもたらす反面、暴力性を孕むこと)をふまえる必要があるとして、金銭を媒介にうまれるケアの関係性の質的側面を民族誌的に明らかにすることを目指した。

主従関係と親密性がいりまじった関係が介護従事者や昔から馴染の家事使用人とのあいだにも築かれることで、子による扶養を補完している事例、近所づきあいがあるなかに、手当の一部を介在させることで身の回りの世話や看取りに関わってもらうような事例、寡婦年金が核となって疑似家族的な関係性を新たに構築していく事例などがあったが、概して社会保障手当は家族の論理を置き換えるものではなく、それを広げたり補完したりするものであり、それは様々な形でケア・ネットワークを媒介していることを明らかにした。このことを踏まえ、望ましいケアを十全になしまた受けることができるようになるためには、高齢者に対する福祉的受給の制度を拡充する必要性があるとも論じた。また、ここでのフィールドワークに基づくケアのありようを、「fiction としての家族」「汚わいとこれに対処する技術・道具とケアの経験」等の観点から民族誌的に記述した。

さいごに、本研究事業は**コロナ禍と経済危機とが重なる時期に実施された**。そこで、コロナ禍における高齢者をとりまく状況や、コロナ禍での調査の継続というテーマに、成り行きなかで向き合うことになった。スリランカにおいて新型肺炎コロナウイルスの影響下で発令された外出禁止令の適用期間中、企業や宗教団体、篤志家、そして国の機関により困窮者に対する人道支援が展開したが、その対象の一つが、まさに農村部に留まる高齢者であった。コロナ禍はロックダウンで子世帯が都市部を離れられず、普段であれば定期的に農村に戻り、金銭や食料を供与したり、病院に付き添ったりというケアが出来なくなったため、農村部にいわば「取り残された」ようにして過ごす老親らへの注目が集まったのである。

スリランカでは、支援の現場では行列をなした群衆に死者が出るなどその悲惨さが話題にのぼる一方で、物資を謙虚に受け取る村落部の高齢者の姿が SNS 上や TV で話題を集めていた。この後者について、贈与の場における与え手との相互行為や、これを画面越しに目撃した観衆の反応を詳しくみていくと、「布施」や「功德」といったローカルな概念・実践に媒介されながら高齢女性(「アンマー」)が寄付を運んできた者たちと一時的かつ対面的な関係をむすぶさまが明らかになった。

以上に述べたような、社会保障制度やさまざまな形の手当、あるいは人道主義的支援などが、実際どの程度、老年の暮らしや扶養や看取りの営みに影響を及ぼすのかを同定するには、民族誌的なアプローチに加え、サーベイ調査も有効であると考えられた。そこで、老年扶養や身の回りに関して、狭義の家族において、誰がどこまでを担っているのか、ある程度の傾向性をつかむため、都市部と農村部という異なる生態的・社会経済的条件のもとにある地域に共通して使うことができるような調査票を、現地の研究者や対象とする対象地に居住する協力者の方々とのディスカッションをふまえて完成させ、データを共有し議論に着手したことは、大きなステップであったと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 2023年11月号
2. 論文標題 再会 四年ぶりのスリランカ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 125巻2号
2. 論文標題 コーラ・ダイヤモンドの言葉が響くとき	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 國學院雑誌	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 78(2)
2. 論文標題 ケアの文化人類学が現代日本にもたらすもの	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 279-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村 沙絵	4. 巻 86
2. 論文標題 道徳哲学と民族誌の「もう一つ」の交わり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 250-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.2_250	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Sae	4. 巻 29
2. 論文標題 Fiction in the making of intimacy in old age: a case from Sri Lanka	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary South Asia	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09584935.2021.1884660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 85
2. 論文標題 人道主義的な贈与のポリティクスと倫理的想像力 スリランカにおけるコロナ禍での外出禁止令発令時の支援を事例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村沙絵	4. 巻 922
2. 論文標題 スリランカ連続爆破事件 その後の世界を生きる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 3件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 C.ダイヤモンドの言葉が人類学者に響くとき
3. 学会等名 哲学・文学・人類学 コーラ・ダイヤモンドの思考を手がかりに
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 繕(つくる)いのケア スリランカ都市部の終末期介護を事例に
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 社会福祉における「コミュニティ」概念の検討： スリランカにおける高齢者の扶養とケアをめぐる取り組みに注目して
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 スリランカにて ある死と看取りについての省察
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター「近現代アジアにおける仏教の所在と社会的役割」研究セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 日常倫理 (ordinary ethics)アプローチの射程
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 Copleston Houseから始まる物語:スリランカの老人施設にみる場所と異質なものたちが作る世界
3. 学会等名 民博共同研究会「不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う モノ、制度、身体のからみあい」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 コロナ禍のスリランカにおける宗教間関係 葬送の方法をめぐる議論に着目して
3. 学会等名 科研A「民主主義体制における少数派排除のグローバル化 アジア・アフリカの比較研究」第2回研究会「コロナ禍・マイノリティ・民主主義 - ミャンマー、ベトナム、スリランカ、ネパールの事例」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 ダーナの「よるこび」のつくられ方 スリランカにおける社会奉仕実践と布施の現場から
3. 学会等名 第53回文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, Sae
2. 発表標題 Bodily sensations and ethical relations: A reflection on the ethnographic encounters at a home for elders in Sri Lanka
3. 学会等名 11th ICAS(International Conference for Asian Studies)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村沙絵
2. 発表標題 少子高齢化を迎えたスリランカの世代間関係と社会福祉
3. 学会等名 第65回比較家族史学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, Sae
2. 発表標題 Intimacy and Economies of Care in Old Age: A Case Study from Sri Lanka
3. 学会等名 11th INDAS International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 酒井朋子・奥田太郎・中村沙絵・福永真弓	4. 発行年 2024年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 285
3. 書名 汚穢のリズムーきたなさ・おぞましさの生活考「ゆだねる よだれかけと「ちぐはぐなイメージ」」	

1. 著者名 Awaya, T. and Tomozawa, K. (chapter written by Sae Nakamura)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 362
3. 書名 Inclusive Development in South Asia. "Destitution in Old Age: Living Through Asymmetrical Relations."	

1. 著者名 Matsuo, M., Nakamura, S. and Funahashi, K.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 264
3. 書名 Life, Illness, and Death in Contemporary South Asia: Living through the Age of Hope and Precariousness."Introduction," "Patching the Relation of Care: An Essay on Senility, Intimacy, and Old Age Allowance in Urban Sri Lanka"	

1. 著者名 比較家族史学会、小池誠、施利平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 家族のなかの世代間関係「現代スリランカにおける社会保障手当と老年扶養 ケアの関係性はいかにひらかれるか」	

1. 著者名 田中雅一、石井美保、山本達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 456
3. 書名 インド・剥き出しの世界「剥き出しの生 が媒介する共同性 スリランカの老人居住施設における老いと看取りの現場から考える」	

1. 著者名 中村沙絵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 251
3. 書名 『新・世界の社会福祉 第9巻 南アジア/オセアニア』第3章 スリランカの世界福祉	

1. 著者名 中村沙絵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 『ようこそ南アジア世界へ』高齢者 変わる家族と老親扶養	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関